

2018年8月2日 ドイツ・ミュンヘン

2018年度 第3四半期決算

期間:2018年4月1日~6月30日

堅調な受注増が際立った第3四半期の好業績

「第3四半期は堅調な受注増がグローバルに際立ち、市場を上回る好業績を達成することができました。当社は将来的な機会や課題を見据えて熱心に取組んでいます」 ジョー・ケーザー、シーメンスAG社長兼CEO

- 為替の影響およびポートフォリオの効果を除く比較可能ベースで、受注は21%増、売上は前年同期と横ばい。
- 名目ベースで、受注は大型受注に牽引され16%増の228億ユーロ。売上は205億ユーロで、前年同期比4%減。これは主に為替の影響による。出荷受注比率は1.11。
- インダストリービジネスの利益は2%増の22億ユーロ、利益率は10.7%。デジタルファクトリー事業の好業績と多くの事業部の業績改善がパワー&ガス事業の急激な収益減と採算の悪化を一部相殺。
- 純利益は12億ユーロで、ポートフォリオ中央管理活動(CMPA)によるプラス効果があった前年同期に比べて、所得税率の大幅引き上げにより減少。基本1株当たり利益(Basic EPS)は前年同期の1.67ユーロに対して1.36ユーロ。

Siemens

(単位：100万ユーロ)	第3四半期		増減 (%)	
	2018年度	2017年度	実質	比較
受注	22,802	19,675	16%	21%
売上	20,473	21,298	(4)%	0%
利益				
インダストリービジネス	2,209	2,173	2%	
内、退職手当	(82)	(94)		
利益率				
インダストリービジネス	10.7%	10.1%		
退職手当を除く	11.0%	10.5%		
継続事業からの利益	1,164	1,424	(18)%	
内、退職手当	(138)	(110)		
純利益	1,210	1,409	(14)%	
基本1株当たり利益 (単位ユーロ)	1.36	1.67	(19)%	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	879	941	(7)%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	10.1%	11.6%		

- ・ シーメンス・ガメサ・リニューワブルエナジー (SGRE)、パワー&ガス事業、およびモビリティ事業における大型受注案件により、堅調な受注増を達成。さらにデジタルファクトリー事業を中心にほとんどすべてのインダストリービジネスで受注増を達成。
- ・ 売上は為替のマイナス影響により減少。比較可能ベースで、インダストリービジネスの大半で達成した売上増は、パワー&ガス事業および SGRE の大幅な売上減により相殺。
- ・ 1.11 という高い出荷受注比率が受注残を押し上げ、記録的な高さの 1,320 億ユーロを達成。
- ・ 為替のマイナス影響は受注増加率を 5 ポイント、売上増加率を 4 ポイント押し下げる。ポートフォリオ取引は前年同期比で受注および売上にほとんど影響せず。
- ・ インダストリービジネスの利益：今期も好調なデジタルファクトリー事業はインダストリービジネスの中で最大の利益貢献と利益増を達成。インダストリービジネスの他の事業も堅調な業績を示す。一方、パワー&ガス事業の利益は悪化する市況を受けて急落。全体の利益と収益性は、特に Siemens Healthineers、エナジーマネジメント事業、およびプロセス&ドライブ事業で為替のマイナス影響を受ける。
- ・ 継続事業からの利益は、ポートフォリオ中央管理活動 (CMPA) によるプラス効果があった前年同期に比べて、所得税率の大幅引き上げによりマイナス影響を受ける。
- ・ 純利益は従前のコミュニケーション活動関連引当金の解除により、非継続事業として税引前効果で 5,300 万ユーロを上乗せ。
- ・ インダストリービジネスからの今期フリーキャッシュフローは、主に SGRE による正味運転資本の大幅な積み上げを記録した前年同期の 13 億 9,700 万ユーロから 18 億 200 万ユーロに大幅増加。この改善は、主にシーメンスの年金資産の強化や米国従業員の退職後給付の確保への大幅な拠出金を含み、インダストリアルビジネス以外のキャッシュアウトフローを十分に相殺。
- ・ 年金引当金および類似債務は 2018 年 6 月 30 日現在で 76 億ユーロに減少 (2018 年 3 月 31 日現在は 81 億ユーロ)。主に大幅な拠出金による減少。
- ・ ROCE (使用資本利益率) は純利益の減少により低下。平均投下資本の僅かな減少によるプラス効果を十分に相殺。

将来の業績に関する見通し

このリリースには、過去の出来事ではなく、将来の業績に関する見通しや情報が含まれています。「期待する」、「予想する」、「意図する」、「計画する」、「信じる」、「模索する」、「推定する」、「予定する」といった言葉やその類義語は、将来の業績に関する見通しに該当する可能性があります。こうした見通しは、当社の現時点での予測と一定の前提に基づいており、したがって、特定のリスクや不確実な要素に左右されることがあります。シーメンスの事業活動、事業戦略、業績に影響を及ぼす要素はさまざまで、その多くはシーメンスには制御不可能なものです。そのため、シーメンスグループの実際の業績、活動、成果は、こうした将来の業績に関する見通しの記述や暗示とは大きく異なる可能性があります。特定の不確実な要素には、景気や取引状況の変化、為替動向や金利の変化、他社による競合製品・技術の導入、シーメンスグループの新しい製品・サービスの不振、事業戦略の変化やその他のさまざまな要素の変化などが含まれます。万一、これらのリスクや不確実な要素が現実のものになれば、実際の業績は将来の業績の見通しの予想、確信、予測、期待、意図、計画、予測とは大きく異なる可能性があります。シーメンスは、将来の業績に関する見通しの作成後に発生する出来事に照らして見通しを更新、修正する意図はなく、またそうした義務を負うものではありません。

【参考資料】

本資料はシーメンス AG(ドイツ・ミュンヘン)が 2018 年 8 月 2 日(現地時間)に発表したプレスリリースの一部を日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語はドイツ語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。原文プレスリリースおよび関連資料は以下の URL よりご覧いただけます(英文)。

<https://www.siemens.com/press/pool/de/events/2018/corporate/2018-q3/2018-q3-earnings-release-e.pdf>

報道関係からのお問い合わせ先:

シーメンス株式会社

コーポレートコミュニケーション部 今村

E-mail: masako.imamura@siemens.com